



観光行政・市民の命を守るために

柴崎 登美夫 (新政策研究会)

問 県内初の登録DMOに認定されたことで、本市の観光は大きく変わると認識しているが、今後期待することは何か。

答 秩父市、川越市に並び埼玉県第3の観光地としてのブランドを形成、確立し、観光消費の拡大を通じ地域経済を活性化することである。

問 まちぐるみで取り組んでいる花手水や市の職員が手作りで行っている、忍城ライトアップイベントの成果により、まさに賑わいが生まれているが、このような成果を今後どのように充実させるのか。

答 好評となっている行田花手水ウィークやライトアップイベントについては、この取組に共感してもらえ、花手水の参加者を増やすとともに、演出にさらなる工夫を凝らし、何度訪れても楽しんでもらえる観光地として

レベルアップを図りたい。

問 各種がん検診の受診率アップに向け、各種団体との連携は、どのように取り組んで来たか、また今後どうしていくのか。

答 集団検診と個別検診を併用して行っている。市医師会の協力の下、毎年6月から翌年2月の9カ月間の間に、身近な医療機関で本人の都合に合わせて日程で受診できる体制を整えている。

問 公民連携を掲げて、「子宮頸がん予防啓発プロジェクト」が立ち上がったが、プロジェクト推進に際し、具体的な取組はどのようなものか。

答 本プロジェクトは、市民が子宮頸がんを苦しまないために市とプロジェクトに賛同する団体・企業等がそれぞれの特徴を生かして主体的に予防啓発に取り組むものである。



行田市子宮頸がん予防啓発プロジェクト

梁瀬 里司 (黎明21)

問 行田市子宮頸がん予防啓発プロジェクトがスタートしたが、どのような活動を行うのか。

答 市民が子宮頸がんを苦しまないために、本市と本プロジェクトに協賛する団体・企業等が主体的に子宮頸がんの予防啓発に取り組むもので、具体的には本市において市報、ホームページ等の広報媒体を活用した、予防啓発や本プロジェクトへの参加団体等の拡大に関する取組等を行う。

一方参加団体等においては、子宮頸がんの予防等に関する周知啓発ポスターの掲示やリーフレットの配布、予防講座の開催などを行ってもらう。

問 接種率の向上はどのように考えているか。

答 本市の接種率は令和元年度0・06%、令和2年度1・35%、令和3年度5・45%。接種を進め

るには、接種対象者等に對し、接種について検討、判断するために必要な情報を提供することが接種率の向上につながるものと考えている。

●男性トイレにサニタリーボックス(汚物入れ)の設置を

問 前立腺がんや膀胱がんと診断された男性は年間10万人以上である。手術の影響で頻尿や尿漏れの症状を起こすため尿漏れパットを利用している方々のため、本市でも男性トイレにサニタリーボックス(汚物入れ)を設置すべきと考えるが。

答 公共施設の多目的トイレ25施設、男性用個室トイレ4施設に設置しているが、設置箇所の拡大に取り組んでいく。

【その他の主な質問】

- 中学校部活動
- 小中学校の統廃合
- 学校給食



熱中症の対策・花手水week 協力者の負担軽減について

橋本 祐一 (みらい)

問 全国では、令和3年5月から9月の間で緊急搬送人員が4万7877人、そして約80人の尊い命が奪われており、行田市において市民の安心・安全な生活を守るために対策が求められるが、熱中症の対策について周知など、どのように考えているか。

答 熱中症の周知啓発活動については、市報やホームページへの掲載、公共施設でのポスター掲示やチラシの配架、消防本部における救急講習時のチラシやリーフレットの配布などを通じて市民への注意喚起に努めている。また、外出中に水分が悪くなった場合に備え、地域公民館、総合福祉会館、地域包括支援センターなどの市内25施設に経

口補水液、冷却材、冷却用水、体温計、タオル、うちわなどの入った熱中

症対策応急キットを配置し、クールオアシスとして広く周知している。

問 花手水イベントの協力者の負担軽減について、費用の支援策はどうか。

答 無理のない範囲での協力を依頼しており、おもてなし観光局より水鉢、浮き球、LEDライトを貸与し、一定の負担軽減が図られていると考える。また、行政による支援は必要最小限であることが望ましいと考える。

問 クラウドファンディングなどを行い参加者に費用を支援するのはどうか。

答 出来る範囲でのおもてなしが、コンセプトであり、花の準備が大変だという声は真摯に受け止める。

【その他の主な質問】

- 花手水トイレ対策
- スクールバス事業